

2023年度 教育活動等に対する園関係者評価

社会福祉法人愛の園福祉会

第2幕張海浜保育園

1. 保育目標

すべての人は例外なしに「神によって創造された存在である」という理解に立って、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針と定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

《基本方針》

- ①心の清い正直な人間・・・（良心教育）
- ②心の豊かな明るい人間・・・（情操教育）
- ③からだの丈夫な強い人間・・・（健康教育）
- ④動作の機敏な人間・・・（安全教育）

2. 本年度の重点課題

- ①地域の子育て支援への取り組み
- ②園独自の保育のアピール
- ③保育の質の維持を図る取り組み
- ④基本理念の明確化
- ⑤人材の定着

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

（評価はS90点以上 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D50～59点 E50点以下 ）

評価項目		具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
			評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
教育・保育方針	1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に合わせた保育カリキュラムの計画と実践を行う。 発達支援の研修や報告会を通し学び合う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムを元に具体的な活動計画をクラス毎に作成している。作成した計画は年齢・発達に即した物になっているかを園長・主任が確認し、実際のクラス活動に取り入れられている。 今年度は姉妹園に発達支援事業所が開設した為、保育・療育連携会議等で事例検討報告会を行い、発達支援に対する学びを深めている。今後も同じ法人内の事業所として密な連携が期待できると思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 発達支援事業所が併設されたことは子どもたちにとっても大きいと思う。 個性と言われているものが多分化されていて、子どもたち自身も友達同士どのように接していけばよいか悩む姿がある。 子どもたちが他の子どもたちの個性をどう受け止めたり、認めていけるようになるか、その術を身につけられていけるのではと期待している。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士・保育者が各年齢発達に合わせた食育のねらい・目標を理解し計画を立て実践する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各年齢に合わせた食育活動を行うことができた。子ども一人ひとりが年度始めより食事を楽しみにしたり、興味を持てるようになってきている。幼児組では一年を通して3色食品群分けを行ってきたがどの色がどんな役割を持っている等詳しい話を栄養士からする事ができなかった。また、3色食品を考えながら弁当を自分で詰めたり、献立を考えてみる等の展開ができたなら良かったと感じる。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 3色食品群を家でもやっており、園での取り組みが子どもたちに浸透していると感じる。保護者のなかには子どもが家では野菜を食べないので、給食を頼りにしている人もいる。三角食べなど、食事のマナーも伝えてくれていることもありがと思う。 栄養士講話に参加できたことが良かった。今後も大変だと思うが開催してほしい。 出来立ての給食が食べられることが園を選んだ理由の一つだった。卒園してからも食材への興味を示している。自分たちで育てた野菜を調理して食べることの経験や、一緒に何かを作る経験が共働きの家庭では難しい。そのような取り組みに感謝している。
特色のある保育の展開	3	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根差した園になるために園での取り組みや情報を地域に公開する。 気軽に相談できる場所を提供し子育て支援をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 公園で遊ぼうも少しずつ地域に周知されてきていて、今年度は定期利用をされる方もいた。また、施設見学から公園で遊ぼうに参加してくれた方も多くいたので、今後も引き続き情報発信は行っていく。また、現在は遊びへの参加がメインになっているが、子育て相談や栄養相談などを利用者の状況に合わせ活動のバリエーションを増やしていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後更に活動の幅を広げていきたい。地域のニーズを考えた際に、子育て相談や栄養士相談ができるとよいと考える。参加者にアンケートを取り、地域のニーズをもっと捉えて展開できるようにしたい。また、園内での活動も考えていければと思う。 実際の様子を見ることはできなかったが、継続し実績を重ねていることが素晴らしいと思う。 子どもたちとの関わりはポジティブなこと、楽しいことであるので、七夕やクリスマスなどで海浜幕張駅は今後も継続して交流したい。

評価項目		具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
			評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
保護者との連携	4	・保育園での保育活動の理解と向上に向けた取り組みをする。	A	・保護者連絡委員会の活動の中でクリスマス会の装飾作りを行った。クリスマス祝会には参加しない0, 1歳児クラスの保護者の参加も多数見られ、保育活動の理解に繋がられた。また、今年度はクリスマス祝会への保護者参加がありキリスト教保育への理解に繋がる機会となった。	S	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者連絡委員会の中で、行事の作業を一緒にやってもらったり、輪つなぎを家庭で作って持ってきていただいて園内の飾りとして使用させていただいた。保護者の方との一体感を感じている。 ・保育園の活動に対し、保護者の方の関心を感じている。なかなか休みを取れない方もいるので、今後オンライン、平日週末開催など会の開催の仕方を多様に検討していく。 ・連絡委員会として、年度初めに計画を立てた際に、保育者の業務負担を減らすことを目的とした。今年度、どこまで達成できたかはわからないが、装飾を見た子どもたちの言葉から園運営に参加できているという実感は感じられた。
危機管理	5	インシデントやヒヤリハットを基に具体的な事故防止に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内だけではなく法人で起きた事故や怪我については速やかに全職員に周知し予防に努めている。 ・園内で発生した事故、怪我については毎回保育の振り返りや分析を行っている。また、園内でのヒヤリハット事例があった際には全職員で共有し事故や怪我を未然に防げるようにしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事故は0パーセントにならない。事故を起こさないと考えると職員のプレッシャーになってしまい、活動の幅も狭まってしまう。それよりも大きなけがのリスクを減らしていくことを目標にしてほしい。 ・事故の発生状況の統計データが国から出たが、事故の発生するタイミングが大きく変わった印象を受けた。自分の園に落とし込んで見るとよい。 ・川嶋様：事例が増えすぎると保育者にとって負担にもなると思うので、事故の要因を除去できるものはして、事故が起きない環境を作ることが一番だと思う。

評価項目		具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
			評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
保育者の質の向上	6	キャリアアップファイルを活用しながらキリスト教保育計画の中に生かしていく。またキリスト教保育の実践に取り組んでいく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保育計画作成の際には法人のキャリアアップを元に作成している。また、月の計画にキリスト教保育の内容が入れられる様に作成時にはキリスト教保育の冊子も参考にしている。保育実践では年齢ごとに差があるが、職員としてキリスト教保育の理解は今後も深めていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教保育を含んだキャリアアップファイルを用いて保育士が各年齢に合わせてカリキュラムを作成している。 ・自然の不思議や恵みへの感謝のお祈りなど、キリスト教保育の冊子を読み、学びを深めている。 ・乳児の職員に関しては、幼児職員のように朝の礼拝に参加する機会がなく、キリスト教への理解を深めていく必要があり、法人の理念や保育方針の理解に繋がるので、今後の課題として挙げられる。 ・川嶋様：あまり肩の力を入れず、子どもたちと一緒に考えてみるくらいでよいかと個人的に考える。考えるきっかけになり、頭に残れば子どもたちは自分たちで考えると思う。
	7	保育者の質の向上に向けた研修を取り入れていく。 (専門家を招いた講習会)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も様々な講習会や研修を開催することができ、日々の保育運営に活かされている。また、今年度は保護者の参加の講習も行えたので、知識を共有することができた点はとても良かったと感じる。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・夏には熱中症セミナー・秋には嘔吐処理を専門家の方から学び、現場に活かす知識を得た。今年度は専門性のある職に就いている保護者の方に講師をお願いし、保護者連絡委員主催の口腔衛生セミナーを行った。 ・園での研修や講習会は保育園の特性上、平日昼の開催が多くなってしまいが、同じ学びを共有できるとよいと思った。子どもと親と一緒に聞くことが大切な場面もある。話題を親子で共有して理解を深めることもできる。 ・親子での参加は非常に良いと思う。保護者が専門知識を活かして園に貢献できることは良いことだと思う。

評価項目		具体的な取り組み	園関係者評価委員会			
			評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
園経営全体の向上	8	グッドジョブカードを利用し、称賛文化と職員のモチベーション向上に向けた取り組みをする。	B	<ul style="list-style-type: none"> グッドジョブカードを使った称賛文化が取り組みを継続させる事で少しずつ根付いてきているが、日頃より職員間のコミュニケーションを大切にしている。法人の働きやすさ検討委員会では引き続き職員の働きやすさと働きがいを感じられる職場作りを目指し活動を行っている。 	B	<p>それぞれの職場では？</p> <p>松井様：園のチェックを入れるだけのものが良いと思った。提出した人の他者を見る目についても評価していくとよい。出した枚数が見える化するとモチベーションの向上や上司がこれだけ取り組んでいるなどの認識につながる。年度初めに個人に大量の用紙を配り、そこから使う。</p> <p>笹木様：サンクスウィークを作る、デジタル上で送る方式を取り入れている。人事考課に取り入れることもしている。チームごとに先週の活動のうまくいったことをチームに報告して、周囲がフィードバックを行い、感謝をする。周囲に評価されることや新しい気付きを得たり、働きがいに繋がっている。</p> <p>中武様：情報共有のteamsを利用して情報共有や事故報告・感謝を伝えるチャンネルを作成。褒めるときはみんなの前で、叱る時は個別で。全員が参加しているので、投稿をしている人そうでない人がわかる。送っていない人がいると、周りを見るようになっていく。ショップに対してはカードを作成。期間をきめて買い物に行ったときなどに渡しに行くことでコミュニケーションを取れるようにしている。</p> <p>・若い人たちは叱られなれていないが、褒められ慣れてもいない。SNSなどのコミュニケーションは慣れていないが、直接のコミュニケーションに慣れていないのでデンタルツールも利用している。</p>

評価項目		具体的な取り組み	園関係者評価委員会			
			評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
園経営全体の向上	9	人材定着への取り組みをする。 (不安ガイドブックの作成)	B	<ul style="list-style-type: none"> 法人の委員会を通して不安解消ガイドブックを作成したが実用には至っていない。今後内容も含めて再検討が必要である。また、ガイドブックを職員に配布するだけではなく、職員の不安に感じることは常に目を向け一人ひとりの職員に寄り添っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブックにない不安は座談会等少人数でのコミュニケーションの場を作って話す場面を作ることが出来ればと検討している。働き続ける中で悩みや不安が変わっていくのではと思う。その点も留意したい。同じ職種や働き方の人たちが会話をすると同じ悩みも出てくる予測がされるので、そのような場も設けていきたい。 川嶋様：作成しただけでも素晴らしいと思います。 顧客満足度に繋がるのは従業員満足度。なるべく休みを取る、残業を減らす等職員のライフワークバランスを重視してもらえるとよいかと思う。
	10	法人の基本理念を明確化・可視化し、すべての職員と共有して事業の目的・行動指針を基に実践していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> 法人の基本理念の見直しを行った際には職員が理解できるように理事長先生よりお話いただいた。園内でも週初めの朝礼で読み合わせを行っている。また、会議等では職員として大切なことを常に言葉にし意見交換を行い目指す方向性を統一できるようにしている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今保育者に求められていることを敏感につかみ取り、保護者や地域方のニーズに応じた取組みを行っていくことが、我々の使命であることを常に意識するための基盤となっているもの。 法人設立当初と今情勢の変化・ニーズの変化に圧わせて変更している（インクルーシブ・多様化）自分保育や行動を立ち返る為の目印。その法人の理念を大切さに気づいて理解を深められるようにしたい。

第2幕張海浜保育園園評価実施要綱

【目的】

乳幼児の教育・保育活動その他園運営について目標を設置し、その達成状況や取組み状況について評価することにより、組織的・継続的な改善を

【評価】

①自己評価は、当保育園多職種によって（保育士・栄養士等）行い、設定した目標や計画に照らし、その目標の達成状況や取り組みの状況について評価を行う。

②園関係者評価は第2幕張海浜保育園に在籍する園児の保護者代表と姉妹園の園長他、園関係者・地域の方が自己評価の結果に基づき、評価と助言を行う。

【評価時期】

自己評価	年2回	9月・1月
評価委員による評価	年2回	1月
第三者評価	5年ごとに1回	2016年・2021年

【報告】

・園評価の結果について、保護者及び地域住民に公表する。尚、公表時期は、評価を実施した翌月とする。

【評価委員とその任期】

(自己評価者)

1	福嶋悦子園長・杉森未緒主任保育士・市川まりこ副主任保育士・古作江梨奈保育士・長谷川千尋栄養士
---	--

(評価委員)

1	第2幕張海浜保育園に在籍または卒園した園児保護者	連絡委員会会長	川嶋 恭子
		卒園児保護者代表	笹木 美奈子
2	地域関係者	株式会社千葉ステーションビル海浜幕張支店 支店長	前原 奈緒子
		海浜幕張駅長	藤本 絵美
3	姉妹園職員	県立幕張海浜公園パークセンター所長	千葉 諭
		社会福祉法人愛の園福祉会 幕張海浜こども園園長	
4	その他園が認めた者		

評価委員の任期は委嘱の日から2年後とし、再任を妨げない